

# 救急車は誰のもの!?

救急活動の現状を考える 緊急度を第一に、適正な利用を

「二一九番」の電話一本ですぐに現場に駆けつけ、救急・救命活動に欠かせない救急車。救急車のおかげで危機一髪、命が助かった人は少なくありません。

ところが、最近は軽症なのに救急車を呼んだり、タクシー代わりに利用したりする不適正な利用が増えています。もし、こうした不適正な利用で救急車が出払っている間に、重症の傷病者から出動要請があったら、すわ一大事…。葉山の救急活動の現状と救急車の適正利用について考えてみましょう。

## ■いま、救急現場は

### 二台の救急車がフル稼働

#### 三交代、二四時間体制で救急対応

急な病気や大けが等、万一の緊急事態に備えて、現在、葉山消防署には二台の救急車が配備されています。

そして、「二一九番」通報を受ける通信指令員、消火・救助活動をする消防救助隊、救急車に乗り込む救急救命士を含む救急隊など十二人で構

成する隊が三隊あります。この三隊が交代で、年中無休・二四時間体制で救急活動に当たっています。

救急出動の際には、一台の救急車に三人の救急隊員（うち一〜二人は救急救命士）が乗り込み、サイレンを鳴らしながら、現場へ急行します。

救急車の出動要請は、毎年、かなりの数にのほります。例えば昨年は、心肺停止状態の重症患者から軽症者まで、一年間で合計一、三三一人の傷病者を病院に搬送しました。

救急車の最大の使命は、傷病者に適切な処置をし、一刻も早く病院へ運ぶことです。従って、とにかく急がなければなりません。

ちなみに、昨年のデータでは「二一九番」通報を受けてから、救急車が町内の現場に到着するまでに要した時間は、平均で五・一分でした。

ところが、町内には大きな病院がないため、傷病者の九六割は横須賀を中心とする近隣市の病院へ搬送します。

つまり、一回救急車が出動してし



同乗の家族から救急車が到着するまでの傷病者の様子を聞き取り、ホットラインで医者の指示を仰ぎながら処置し、搬送先の病院へ急ぐ。

## ■夜間や休日のけがや病気

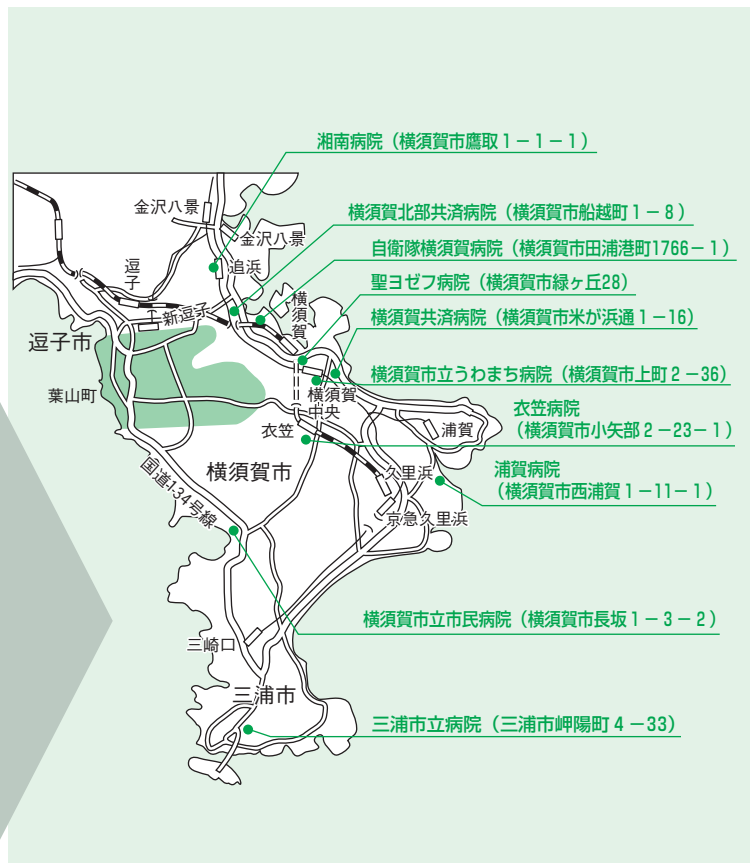
逗葉地域医療センター休日夜間診療室に電話をして相談、指示を受けましょう。(一次救急医療体制)

日中に、病気の症状が出ているようなら、できる限り昼間のうちに病院に行きましょう。無理は禁物です。

## ■個人では対応できないようなケガ人や急病人が発生してしまった!

時間や曜日は問わず 救急車を呼びましょう  
一次救急医療体制では対応できなかったり、入院・手術などが必要になったりするような急患は、横須賀・三浦市内10か所の病院が輪番制で対応しています(二次救急医療体制)。

二次救急医療体制では対応できない重篤な患者は、横須賀共済病院の救命救急センターで、24時間体制で受け入れています(三次救急医療体制)。



救急車は本来、「突然の病気やケガなどで緊急に病院へ搬送しなければならぬ場合」に利用するもの」です。ところが、最近では緊急の傷病ではないのに、「どこかの病院へ行けばよいか分からないので」「すぐに診察を受けたいから」「昼間かかりつけ医に行きそびれた」などと、明らかに救急車は不要と思われるケースでの救急要請やタクシー代わりの利用が増えているのです。

例えば昨年、救急車で搬送した一、三三一人の傷病者の内訳を見ると、搬送後死亡を含む重症者が百十

まうと平均で、現場への到着に約五分、それから傷病者に処置をし病院に着くまでに約三十分、消防署へ戻るのがさらに約三十分……。一時間以上戻ってこないのです。

葉山の救急隊員はこの時間を少しでも短縮しようと、日夜努力を重ねながら救急活動に当たっています。

## ■救急活動の現状

### 救急搬送の半数は「軽症者」

救急活動の現状

誰かの命を危険にさらす!?

ところで、「一一九番」通報で一番困るのが、救急車の不適正利用です。

二人、中等症者が五七五人、軽症者(入院の必要がない人)が六四四人で、軽症での利用が、実に全体の半数近くにのぼっていました。

このような利用が増え、二台しかない救急車が出払ってしまったら、どうなるでしょうか。

心肺停止など一刻を争う重症者から「一一九番」通報があっても、救急車を素早く現場へ向かわせることができず、大切な命を救えなくなる恐れもあります。

現に昨年は葉山の救急車が出払ってしまい、逗子、横須賀など隣接市に救急車の応援を要請したケースが二九件ありました。

「それなら、救急隊員が、現場で軽症者だと思ったら、利用を拒否すればいいのでは?」と思うかもしれませんが、

しかし、救急隊員は医者ではありません。そのとき見た目には問題がなくても、診察を受けたら重篤な病気が見つかった人や、次第に容態が悪化する人もいますので、救急隊員は容態の判断はせず、とにかく病院へ搬送します。

「救急車は、病院への迅速な搬送が欠かせない緊急患者のもの」という原則を肝に銘じ、ぜひ適正な利用を心がけてほしいと思います。

## ある日の救急出動

まだ寒い二月の某日。

葉山町消防本部の三階にある通信指令室に、「家で祖父が倒れた」と救急要請の一九番通報が入りました。

容体を尋ねると、夕食後いきなり倒れ、呼びかけても反応がなく、心肺停止の状態とか。一刻の猶予もありません。すぐに二階の消防署で待機する救急隊の出動指令。救急救命士を含む三人の救急隊員が乗り込み、現場に急行しました。

その間、通信指令員は、家族との電話を切らないで心肺蘇生法の指示を出し、家族が処置を施します。

家族が必死に心肺蘇生法を続ける中、救急車が通報後約五分で現場に到着。直ちに救急救命士が、意識のない傷病者の気道を確保して、人工呼吸や胸骨圧迫心臓マッサージなどの心肺蘇生法をテキパキと確実に施します。

そして最寄りの病院と連絡を取り合い、受け入れ先を探します。

搬送先は横須賀市内の病院に決まりました。傷病者とその家族を乗せて直ちに出発。救急救命士は車内でも、病院の医師の指示に基づいて点滴や薬剤投与などの救命処置をしながら、傷病者の生命確保に全力を注

ぎます。

サイレンを鳴らし、約二十分で病院に到着。待ち受けていた病院スタッフに傷病者を引き継ぎ、無事搬送の仕事を終えました。

すぐに、次の救急要請に備えるために消防署へ戻ります。

病院側の懸命の治療により、傷病者は間もなく意識を回復したとのことです。

その後、「おかげさまで一命をとりとめ、もうすぐ退院です。あのときは、隊員の適切な処置を目の前にして大変心強かったです」と、家族から丁寧な感謝の手紙が届きました。

それでは、救急車をみんなで適正に利用するには、実際にはどのような確認をしよう。

### ■ 日々気を付けること

● 近くの診療所をかりつけ医に  
大きな病院でなくてもいい場合は、昼間にかかりつけの診療所に行きましょう。

逗葉医師会ホームページ <http://www.kanagawamed.or.jp/zuyo/>

逗子市内・葉山町内の医療機関を紹介しています。

● 小さなお子さんのために  
お子さんが誤飲や窒息をしないよ

## 夜間・休日のけがや病気は 逗葉地域医療センターへ

場所 逗子市池子1892-6

(交差点「池子十字路」から京急線の踏み切りを越え、米軍池子住宅地区ゲート手前を左折)

神武寺駅から徒歩10分、または逗子駅から笹倉行きバス・アザリ工団地循環「池子十字路」下車徒歩5分

駐車場 15台

診療科目・診療時間

	診療科目	診療時間	場所	問合せ
夜間	内科	20時～23時	逗葉地域医療センター 休日夜間診療室 ☎873-7752	消防署 ☎876-0119
	小児科			
	外科			
休日	内科	10時～17時	広域休日当番医院 (横須賀・三浦)地域	
	小児科			
	外科			
	歯科			
	眼科	消防署にお問い合わせください		
	耳鼻咽喉科			
産婦人科				





## 消防署出場件数

## 1 火災出場

種別	建物火災	車両火災	その他火災	合計
区分				
平成19年中	3	1	2	6
平成20年中	4	0	1	5
比較	△1	△1	△1	△1

## 2 救助出場

種別	火災	建物等による事故	交通事故	水難事故	その他	合計
区分						
平成19年中	1	7	6	4	4	22
平成20年中	0	4	2	3	3	12
比較	△1	△3	△4	△1	△1	△10

## 3 その他出場

種別	PA連携救急支援	危険排除	偵察	その他	応援火災	合計
区分						
平成19年中	275	9	27	15	0	326
平成20年中	173	7	24	18	0	222
比較	△102	△2	△3	3	0	△104

## 4 傷病程度別搬送人員

種別	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
区分						
平成19年中	20	103	667	741	0	1531
平成20年中	19	93	575	644	0	1331
比較	△1	△10	△92	△97	0	△200

## 5 救急出場(事故種別)件数

種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
区分												
平成19年中	0	0	7	124	13	5	330	5	16	1043	54	1597
平成20年中	1	0	5	120	5	5	296	4	9	882	53	1380
比較	1	0	△2	△4	△8	0	△34	△1	△7	△161	△1	△217

平成20年中の消防車の出動件数は239件、救急車の出動件数は1,380件でした。救急車の出動の内、傷病程度別では依然として軽症（入院を必要としない）の人や、緊急性がないのに利用する人のための出動が多く占めています。

うに、口に入りそうなものを側に置かない、目を離さないでください。

## ●安全運転を

交通事故を起こさないように気を付けましょう。

## ●お酒はほどほど

意識や記憶のなくなるようなお酒の飲み方をしない。

## ●うがいと手洗いを

外出から戻ったら、特にうがいと手洗いを徹底して、病気を予防しましょう。

## ●ハチに刺されないように気をつける

## ●水分を取る

炎天下など汗をかいたときは、十分に水分を取るようにする。

## ●日々、健康管理に注意する

## ■救急車を呼ぶ前に

## ●昼間のうちに受診する

夜間は、検査スタッフが不在だったり、医師や看護師の数も少なかったりして、昼間と同じ医療を受けることはできません。医師がいても検査スタッフがいないために診断がつけられない、待機している医師がその専門ではないという場合があるからです。「昼間は忙しいから」と症状

が重くなるまで放っておかず、医療機関のスタッフや医師が充実している昼間に受診してください。

## ●子どもの体調の急変等の相談は

## 「神奈川小児救急ダイヤル」へ

夜間、お子さんの体調のことで判断に迷った場合、家庭でどのように対処すればよいか、すぐに医療機関

にかかる必要があるかなど、子どもの医療のことを電話で相談できます。

## 日時 毎日18時～22時

市外局番が〇四二以外のプッシュホン回線の場合 ☎#八〇〇〇

市外局番が〇四二以外のプッシュホン回線の場合 ☎#八〇〇〇

市外局番が〇四二、ダイヤル回線

急を要する場合には、救急車が到着するまで、消防本部指令室が電話をつないだまま、家族や側にいる人に救命の指示を出してください。

しかし、ぐったりしている患者を目の前にして、一度もしたことの無い救命処置は難しいものです。家族のために、一度救命講習を受けてみましょう。消防署では、AED（自動体外式除細動器）を含む救命講習を定期的に開催しています。（お知らせ欄十二ページをご覧ください）

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

線、携帯電話、IP電話の場合 ☎〇四五・七二二・八〇〇〇

## ■救急車が到着するまでに

家族や側にいる人の対応が、その後の患者の容態を特に左右するものが、心肺停止（心臓と呼吸が止まった状態）のときです。

心肺停止状態では脳に血が行かなくなるため、放置すると命は助かっても脳死状態になる危険があります。人工呼吸や胸骨圧迫心臓マッサージなど迅速な救命措置が必要です。

急を要する場合には、救急車が到着するまで、消防本部指令室が電話をつないだまま、家族や側にいる人に救命の指示を出してください。

しかし、ぐったりしている患者を目の前にして、一度もしたことの無い救命処置は難しいものです。家族のために、一度救命講習を受けてみましょう。消防署では、AED（自動体外式除細動器）を含む救命講習を定期的に開催しています。（お知らせ欄十二ページをご覧ください）

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇

町内で火災などの災害が発生したとき、状況を録音音声でお知らせしています。消防署や一九番ではなく、防災行政無線が聞こえない場合には、こちらでご確認ください。

消防アレホンサービス ☎八七五・四〇〇〇